

全国団地景観サミット2012
UR賃貸住宅「団地景観フォト＆スケッチコンテスト」

代表団地作品集

暮らしの舞台 一団地の風景一

—— 街に、ルネッサンス ——

 UR UR都市機構



人の営みに育まれ、時に磨かれてゆく。

団地というものがたりを、世代を超えて語りつぐために。

ごあいさつ

UR賃貸住宅の団地は、日本全国に1700以上あります。
その立地や規模、建設年代は様々ですが、それぞれの団地が、
緑豊かな住環境や、団地を舞台にしたいきいきとした生活シーンなど、
独自の魅力ある景観を育んでいます。

「全国団地景観サミット」は、全国の美しい「団地景観」が、
一同に会することを「サミット」になぞらえており、
団地ならではの魅力をみなさまと共有することを目的としております。
2008年に始めたこの取り組みは、今回で5回目を迎えることができました。

2012年は、「暮らしの舞台―団地の風景―」をテーマに
《UR賃貸住宅 団地景観フォト&スケッチコンテスト》を開催いたしました。
今年も全国から、団地で育まれたあたたかなふれあいや交流、
団地が魅せる四季折々の表情など、
団地への想いに溢れた作品とメッセージを多数お寄せいただきました。
多くの皆様からの作品応募による「全国団地景観サミット」へのご参加に、
心よりお礼申し上げます。

皆様から愛される住環境として、また地域の資産として、
団地の持つ環境や景観をこれからも守り育てて参ります。

目次

02	ごあいさつ
03	目次
06	全国団地景観サミットの意義と代表団地について
08	サミット 2012 代表団地一覧
16	入賞作品
18	● 大賞 フォト大賞・スケッチ大賞
22	● 最優秀賞・優秀賞
34	● 審査員賞・キッズ賞
44	● 特別賞 ふれあい賞・団地景観賞・季節賞・メッセージ賞
56	審査員プロフィール・審査の現場から
64	全国団地景観サミット 2012 「団地景観フォト & スケッチコンテスト」の概要

- 入賞者および有識者審査員の敬称は省略させていただいております。
- 入賞作品の紹介内容は原則下記の順で掲載しております。作品タイトル/氏名/撮影団地(都道府県)/メッセージ
- 代表団地一覧は応募作品をトリミング加工の上、掲載しております。



PHOTO AND SKETCH CONTEST

2008 2009 2010 2011 2012

美しい景観に、人々の暮らしに、真摯に向き合う。
そんな眼差しを共有する場でありたい。

5回目を迎えた全国団地景観サミットは、
団地と周辺環境が形づくる景観や、
団地ならではのコミュニティに向けられた
表現者としての眼差しを通して、
作者それぞれの団地への愛着や愛情を共有し、
団地と、そこに住まう人の営みのなかに新しい価値を見出す。
そんな取り組みなのだと、私たちは考えています。

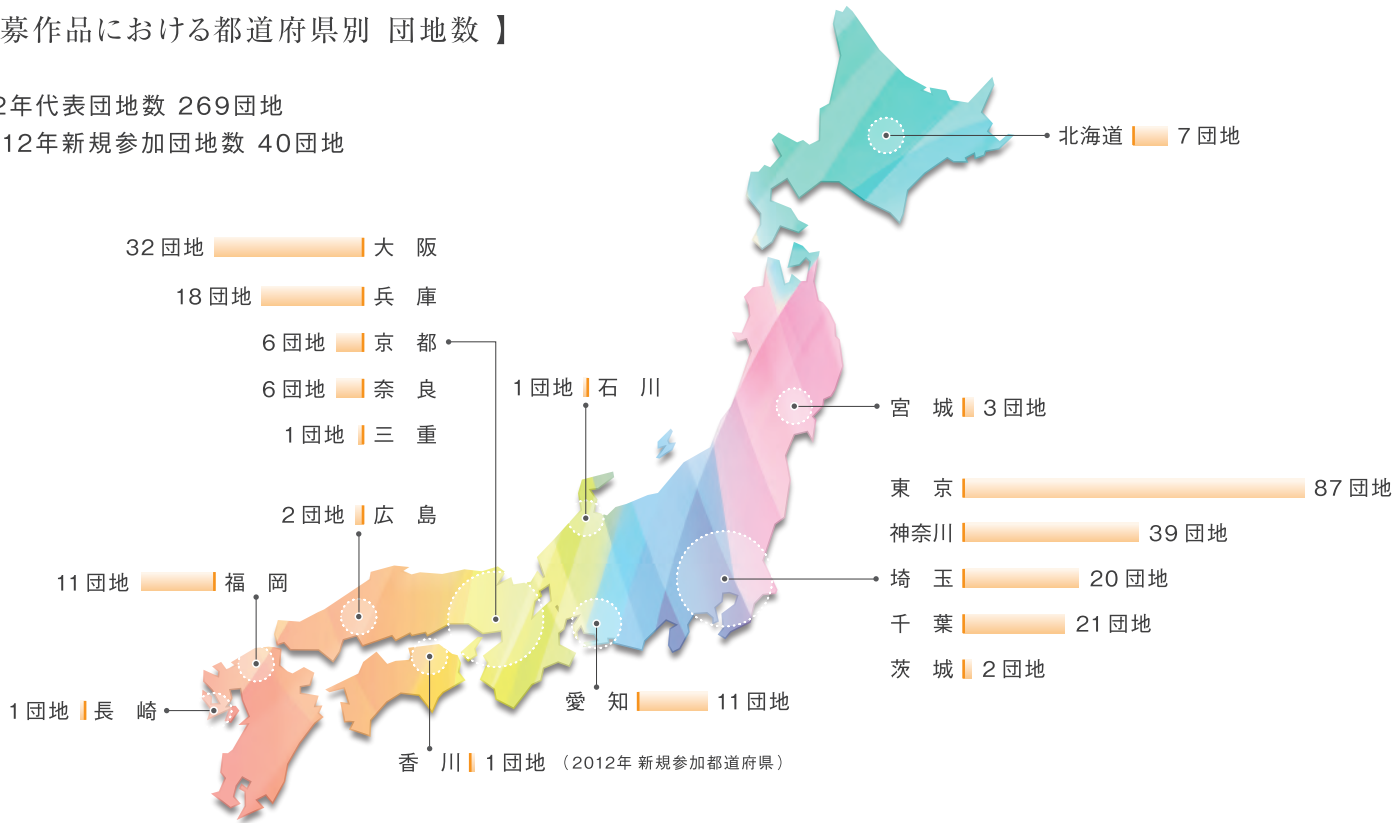
全国団地景観サミットの意義と代表団地について

「全国団地景観サミット」は、日本全国に1700以上あるUR都市機構の賃貸住宅の団地それぞれがもつ景観について、その団地の代表者として作品をご応募いただく想定のもとに、全国から寄せられる団地景観の応募作品を通じて、サミットにご参加いただいています。また、このイベントは、審査を行い入賞作品を決定するという過程を踏んではいますが、多くの団地の景観やコミュニティを題材にした作品が、一同に介することを大事にしています。私どもにとっては、それぞれの団地を題材にした作品が、居住者のみならず、地域の方々の手により、

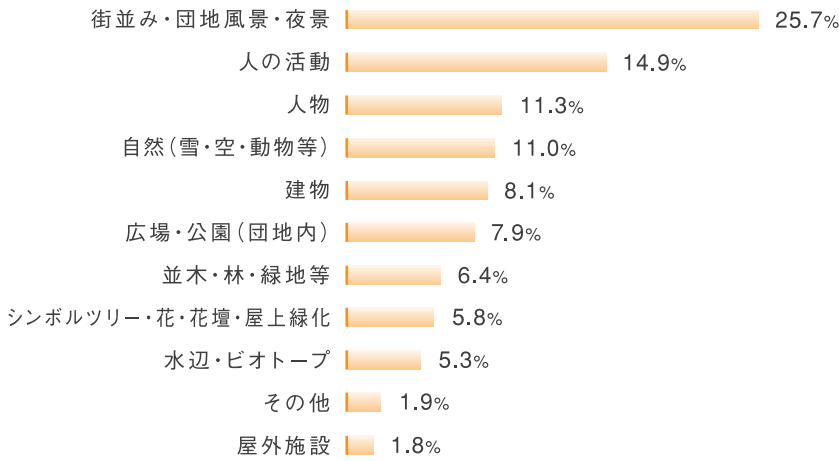
このサミットに集まってくることが貴重な財産となります。全国団地景観サミット2012の代表団地作品集をまとめるにあたり、このような開催の意義を多くの皆さんに理解していただくため、昨年に引き続き、北海道から九州までの全国の団地からご応募いただいた代表団地をご紹介します。今年も、今まで応募の無かった団地から新たにご参加いただきました。小さなスペースではありますが、改めてそれぞれの団地の代表となる作品を見ていただくことで、地域らしさや個々の団地固有の魅力に触れていただきたいと思います。

【 応募作品における都道府県別 団地数 】

2012年代表団地数 269団地
内2012年新規参加団地数 40団地



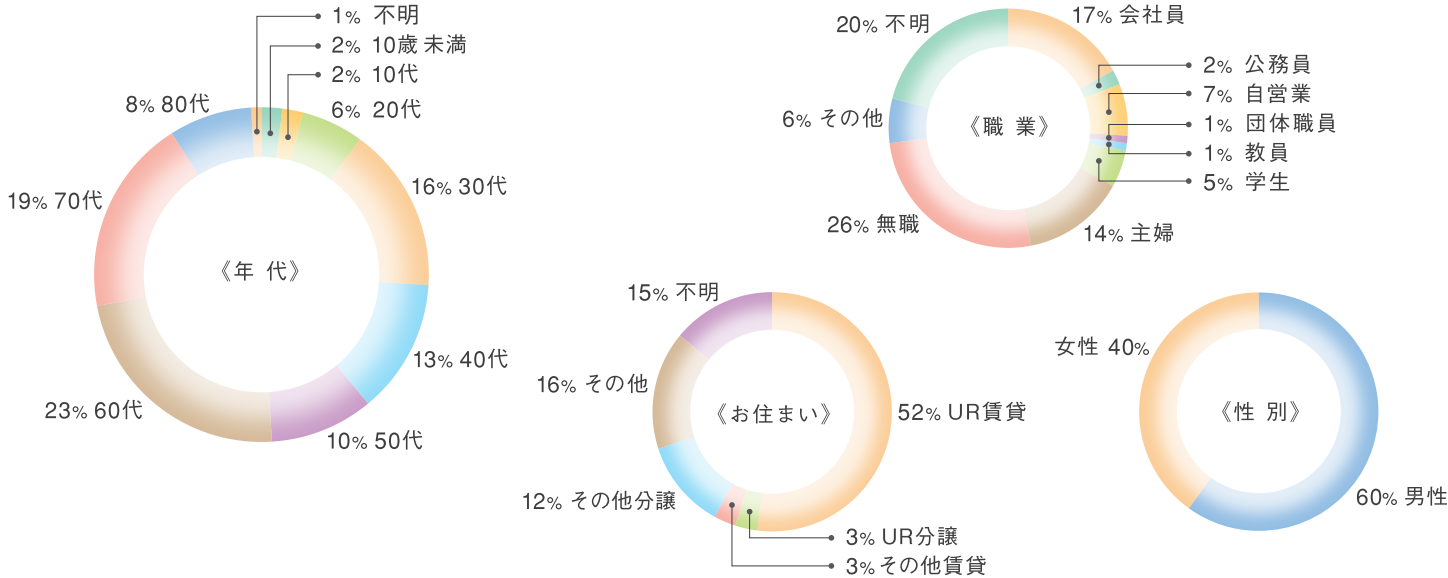
【 応募作品の構成要素 】 被写体の分析



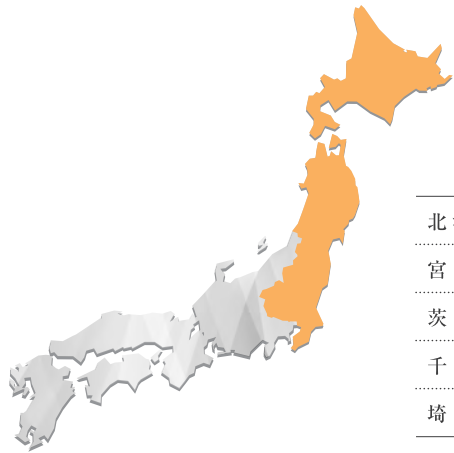
【 応募が多かった団地 】

シーリアお台場一番街・三番街	東 京
赤羽台・ヌーヴェル赤羽台	東 京
新座	埼 玉
王子五丁目	東 京
けやき台	東 京
富雄	奈 良
コンフォール上野台	埼 玉
コンフォール南日吉	神奈川
郡山駅前	奈 良
多摩平の森	東 京
醍醐石田	京都府
ひばりが丘・ひばりが丘パークヒルズ	東 京
大島六丁目	東 京
豊島五丁目	東 京
高座台	愛 知

【 応募者の属性 】 年 代 ・ 職 業 ・ お住まい ・ 性 別



代表団地一覧



	応募団地数	団地総数
北海道	7団地	42団地
宮城	3団地	15団地
茨城	2団地	17団地
千葉	21団地	115団地
埼玉	20団地	153団地

このエリアでは、計342団地中53団地から120作品の応募がありました。
各県における団地の総数は2012年3月から2013年3月のものです。

北海道



大森中町 五輪



札幌琴似 新木の花 澄川



南三条 北広島駅前

宮城



仙台宮城野 仙台幸町



茨城



仙台鶴ヶ谷 エスカード牛久駅前ハイツ 取手井野

千葉



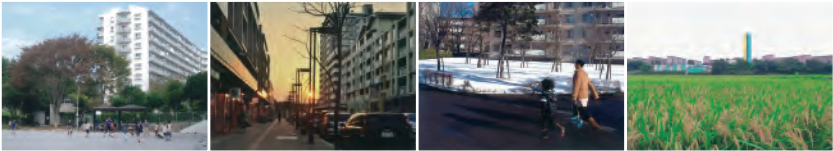
アートヒル高根台 ウィンズタウン稲毛海岸



大津ヶ丘 行田 グリーンタウン光ヶ丘 千葉ニュータウン高花 コンフォール柏豊四季台 さつきが丘 袖ヶ浦



湖北台 常盤平 豊四季台 成田ニュータウン加良部一丁目 ハイタウン塩浜



花見川 幕張ベイタウンミラマール 村上 米本

埼玉



アーバンみらい東大宮東一番街 アルビス鶴瀬



コンフォール鶴瀬 かわつるグリーンタウン松ヶ丘 久喜青葉 久喜中央ハイツ コンフォール上野台



川越いせはらリバーサイド貳番街 幸手 武里 新座 西上尾第一 西上尾第二 ビュータワーおけがわ



	応募団地数	団地総数
東京	87団地	419団地
神奈川	39団地	211団地

このエリアでは、計630団地中126団地から333作品の応募がありました。
各県における団地の総数は2012年3月から2013年3月のものです。



みさと 八潮 若葉台

東京



アートウイレッジ大崎ビュータワー 東雲キャナルコートCODAN



板橋ビュータワー アーバンライフ月島駅前ムーンアイランドタワー



青戸第一 青戸第二 赤羽北二丁目 赤羽台



板橋ビュータワー アーバンライフ月島駅前ムーンアイランドタワー



イーストモモンズ清澄白河セントラルタワー



勝ときビュータワー



立川幸町



高島平



多摩ニュータウンコリナス長池



多摩ニュータウンリベレ向陽台



西国分寺ゆかり参番街



光ヶ丘パークタウンゆりの木通り北



フレール西経堂



リバーシティ21イーストタワーズ・イーストタワーズⅡ



アーバンドエル瀬谷



金沢シーサイドタウン並木二丁目



左近山



港北ニュータウンメゾンふじのき台



コンフォールさがみ南



コンフォール藤沢



コンフォール横須賀本町



コンフォール仏向町



コンフォール南日吉



相模台



西ひかりが丘



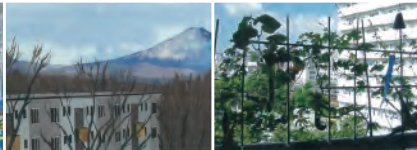
すすき野



善行第三



辻堂



鶴が台



鶴見町第二



十日市場ヒルタウン



奈良北



コンフォール上倉田



ビーコンヒル能見台ウエストヒル



プラザシティ相模大野



ブロムナード矢部



星が丘パークランドつくみ台



保土ヶ谷駅前ハイツ



南神大寺



洋光台中央



レーベンスガルテン山崎



ロビーシティ相模大野五番街



	応募団地数	団地総数
愛知	11団地	125団地
静岡	0団地	7団地
石川	1団地	2団地
新潟	0団地	1団地
岐阜	0団地	2団地

このエリアでは、計137団地中12団地から32作品の応募がありました。
各県における団地の総数は2012年3月から2013年3月のものです。



愛知



アーバンラフレ志賀



相生山



アクアタウン納屋橋



高座台



江南



知立



白鳥パークハイツ大宝



大幸東



鳴子



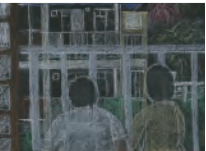
鳴海



藤山台



石川



新神田



	応募団地数	団地総数
三重	1団地	6団地
滋賀	0団地	4団地
京都	6団地	50団地
大阪	32団地	223団地
兵庫	18団地	125団地
奈良	6団地	24団地

このエリアでは、計457団地中66団地から161作品の応募がありました。
各県における団地の総数は2012年3月から2013年3月のものです。



三重



笹川



京都



男山



観月橋



醍醐石田



花園



伏見納所



洛西境谷東



大阪



アルビス五月ヶ丘



香里



泉北原山台一丁



光明池駅前



アルビス緑丘



金剛



桜宮リバーシティ中央



サンヴァリエ春日丘



サンラフレ出来島



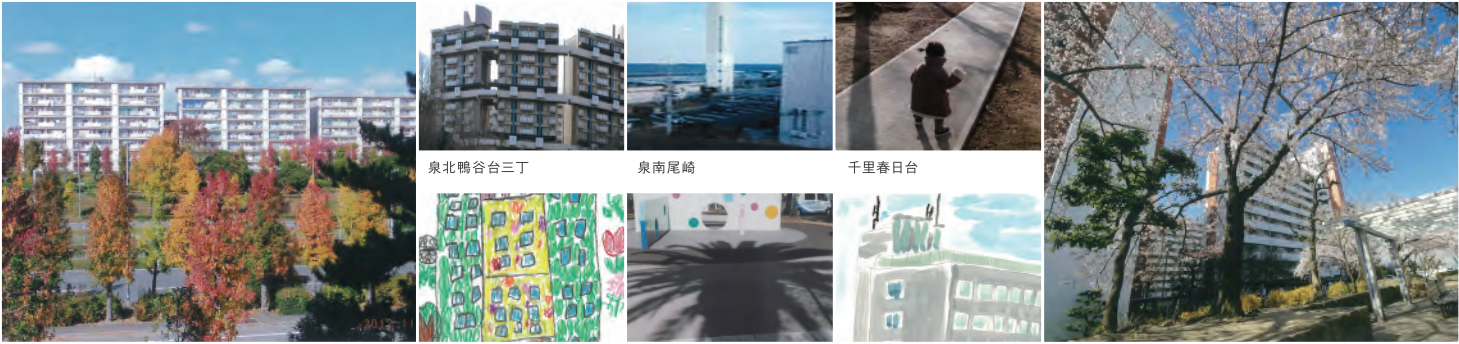
祝尊寺第二



新金岡第一



新豊里



泉北桃山台一丁 泉北鴨谷台三丁 泉南尾崎 千里春日台 玉串西



玉川橋 ルミナス箕面の森五番街 森之宮 藤沢台第三 新千里西町 富田



都島リバーシティ 西島リバーサイドヒルなぎさ街 箕面栗生第三 箕面栗生第一・第三 グリーンヒルズ六甲 アルビス寺本



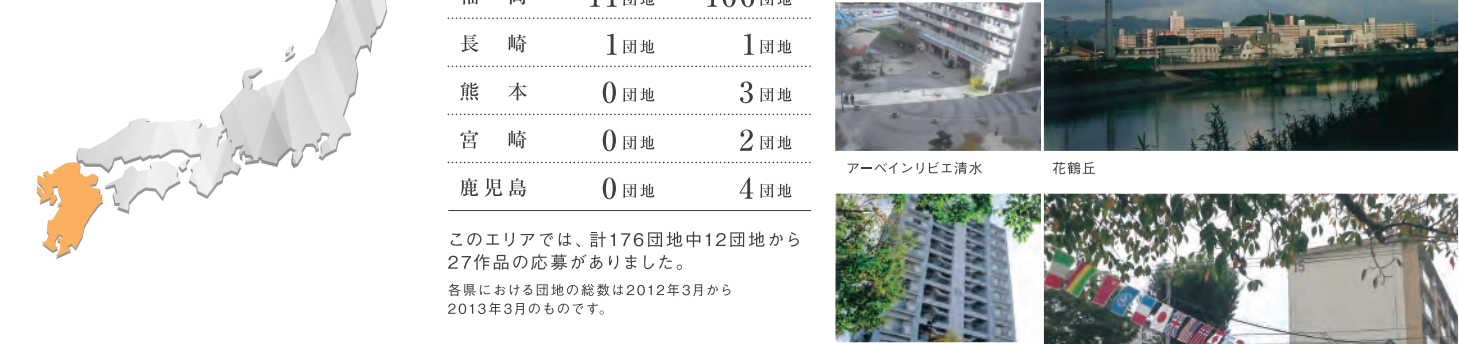
浜甲子園なぎさ街 サンラフレ明石 ポートアイランド 鈴蘭台第五 兵庫駅前 新長田駅前



武庫川 浜甲子園 横尾 ルゼフィール井吹台 奈良・学園前 富雄



白島北町 高陽 屋島第一



福 岡 11団地 166団地 長 崎 1団地 1団地 熊 本 0団地 3団地 宮 崎 0団地 2団地 鹿 児 島 0団地 4団地



徳力 日の里 星の原 萩原 西諫早



入 賞 作 品

例えば、愛用のカメラを、指先に馴染んだ絵筆を、手にとったとき、

作者が写し、描こうと思ったのは、

目にした風景や出来事の美しさだけではないはず。

それぞれの作品が、技術や手法といった枠を超え

見る人に確かな感動を与えてくれるのは、

対象に向かいあった時の作者自身の感動が、

息づいているからに違いありません。



フォト大賞

水鏡 古川 温

豊島五丁目（東京都）

隅田川沿いの散歩道を通り掛かる度に、思わず見とれてしまう印象的な団地の光景。
お気に入りの場所から撮った一枚です。

《審査員からのコメント ハービー・山口》

このアングル、この時間帯にしか撮れない建物の美しいポートレートです。水面に映る反射と相乗して、とても上手い画面構成です。部屋からの光が建物に命を与え、神々しいまでに威厳を見せ、まるで彫刻の様に堂々とそびえているではないですか。撮り方によって、毎日見慣れているところがこんなに美しくなるのです。



スケッチ大賞

スケッチ大賞

カーテン 山室 嘉子

町田山崎（東京都）

以前は団地に住んでいました。用事で帰りが遅くなり、急いでいると、ふと団地の窓が目につきました。各部屋には明りがつき窓には色とり取りのカーテンが掛けられ、そのカーテンのひとつひとつに、違う「いとなみ」があると思うと、不思議に心が暖かくなりました。

《審査員からのコメント ハービー・山口》

夜空には星がまたき始めました。帰宅した自転車を押す女の子。その女の子の安堵した気持ちが手に取る様に分かります。この絵のタイトル通り、カーテンの色のなんと美しいこと。その美しさに女の子は一日の疲れをいやし、明日への希望を胸に抱くのです。人物と建物の配置が素晴らしい。



フォト スケッチ

最優秀賞 優秀賞

「暮らしの舞台～団地の風景～」。

全国団地景観サミット2012が掲げたテーマを、

どう写真に活かすか、どのようにスケッチに表現するか。

実際に団地に住まい、あるいは身近な存在として、

団地の四季や、暮らしを目にすることができる作者だからこそ、

技術だけを追い求めることなく、温かな視点、共感や愛情を、

作品に込めることができるのだと思います。



フォト最優秀賞

ゆっくり、ゆっくり 前田 美幸

飯島（神奈川県）

飯島団地の近くに住む私達は、団地のあちこちにある公園がお気に入り。「きょうは、ここ！」と遊びに来た娘「少しずつね少しずつね！」と声をかけながら一生懸命に登ってくる娘に日々成長を感じています。

《審査員からのコメント 馬場 正尊》

まだ雪の残る住棟の間、逆光の空間の中に柔らかな光が差し込んでいる美しい一瞬を捉えている。この陰影は団地ならではのだろうか。子供たちは住棟の間のいろんな場所で、それぞれの遊びや場所を発見して過ごしている。その団地の自由さや穏やかさが写真の中からジンワリとにじみ出ている。団地のきれいな時間がこの一枚にある。



スケッチ最優秀賞

宇宙公園はぼくらの楽園

大久保 三男

小平（東京都）

けやき、もみじ、いちょう、回りの樹葉が黄、ときいろ、赤、色とりどりに染り始めた、秋日和の休日。子供等の元気な弾んだ声が飛びかう。こゝは彼等の楽園だ。人気の中心は宇宙船。「おい、ここだよ」「兄ちゃん！ぼくも今行くからー」とび回り、遊ぶ子等よ、健やかに伸びよー

《審査員からのコメント 下田 昌克》 illustration 下田氏

画面のどまんなかに宇宙ロケットのような遊具をドーンと描く！とてもカッコいい構図です。描かれている子供達はどれもちがう動きや色で、みんなの声がきこえてきそう。それを見守る様なあたたかい視線もすばらしい。器用に描かれた絵でなく、一生懸命描かれた絵。そしてこのまっすぐな構図！こういうカッコいい 84 才に僕もなりたいです。





フォト優秀賞

そろそろ帰っておいで

西森 未来

千葉ニュータウン高花（千葉県）

夕日に照らされた団地が公園の子どもたちに語りかけているようです。

《審査員からのコメント》ハービー・山口》

「もっとブランコで遊んでいたいのに、夕ごはんの時間です。最後にもう一回！」そんな声が聞こえてきそうです。人物をシルエットにして、夕日がかすかに当たっている建物を背景にした画面。どこか寂しそうで、動きもあって、実に上手く画面構成をしています。なかなか気付かないアングルで、かつベストな瞬間を捉えています。



フォト優秀賞

冬のアシアト

李 源津

王子五丁目（東京都）

今年の初雪の日。
色鮮やかな服を着たコドモたち。
人々は白く染まった道に黒くアシアトを残し先を急いでいる。

《審査員からのコメント》下田 昌克》 illustration 下田氏

ていねいな銅版画を見るような、物語の一場面を見ているような気持ちになりました。とてもきれいです。





フォト優秀賞

照らされる日 湯浅 真樹子

富田（大阪府）

窓辺やバルコニーにふりそそぐ夕日。やさしい光はそこに生活する人々に幸せをもたらしてくれそうです。1つ1つの窓に1つ1つのバルコニーにそれぞれの家庭があり生活がある。やさしい光が幸せをもたらしてくれますように…。

《審査員からのコメント 池邊 このみ》

夕方のやわらかな西日に照らされた団地の窓やバルコニーのきらめきを、印象派の絵画の色使いにも似た空の模様と一緒に切りとった実に美しい写真です。団地の特徴的な配置と、マント空間と呼ばれる住棟前に広がる緑の芝生が、おだやかで幸せな生活を象徴しているようです。夜景や朝日の写真にはない玉虫色の光が幻想的です。



スケッチ優秀賞

文化祭 朝岡 満子

辻堂（神奈川県）

暑かった夏が去り涼風がこちよくなった頃、毎年行われる文化祭。広場も充分使い集会所の中では、手芸、絵、工作、運営委員さんの活躍のたまものです。この地区の交番のおまわりさんが、おとしよりに親切にわかり易く、おれおれ詐欺の説明をしているのを見て、私も、うれしくなりました。藤沢は、けっこうねらわれているみたい。行方不明の放送も聞こえる。

《審査員からのコメント 下田 昌克》 illustration 下田氏

絵の中の景色の中にいろいろなことがいろんなところで起こっている。毎日生きているといいことも悪いこともあるけど、それをちゃんとうけとめる強さを感じます。よくみるとみんな動いてしゃべって生きている。





スケッチ優秀賞

夕方の一時 真田 俊弘

奈良北（神奈川県）

夕方の一時、公園に子供達の笑い声。私の子供の頃、烏が鳴くから帰えろの一場面を走馬灯のように思い浮べ。あの長閑な風景がここにあると感じました。公園での子供さんの笑い声は何か微笑ましく元気を貰った様に楽しい…この場面をカットし絵に残しました。

《審査員からのコメント 馬場 正尊》

その美しさに心をわしづかみにされてしまいました。しばらく眺め続け、いろんなことを考えた。薄暮の一瞬の淡い光と、その中で家々に帰る人々…。なんとも言えないおだやかで、ちょっとだけ切ない空気がこの絵からは流れ出しています。住棟に包まれた独特の空気は、団地ならではのものです。こんな風景の中に、ただずんでみたい。



スケッチ優秀賞

夜の団地 高橋 政成

大津ヶ丘（千葉県）

団地を書いてきて楽しかったです。夜を書いて上手でした。月と星が出て来てちゃんと書きました。団地は上手に書きました。木と月と星がありました。夜には団地がありました。むらさきの夜が書いて黄色の月と星は上手に書きました。

《審査員からのコメント 馬場 正尊》

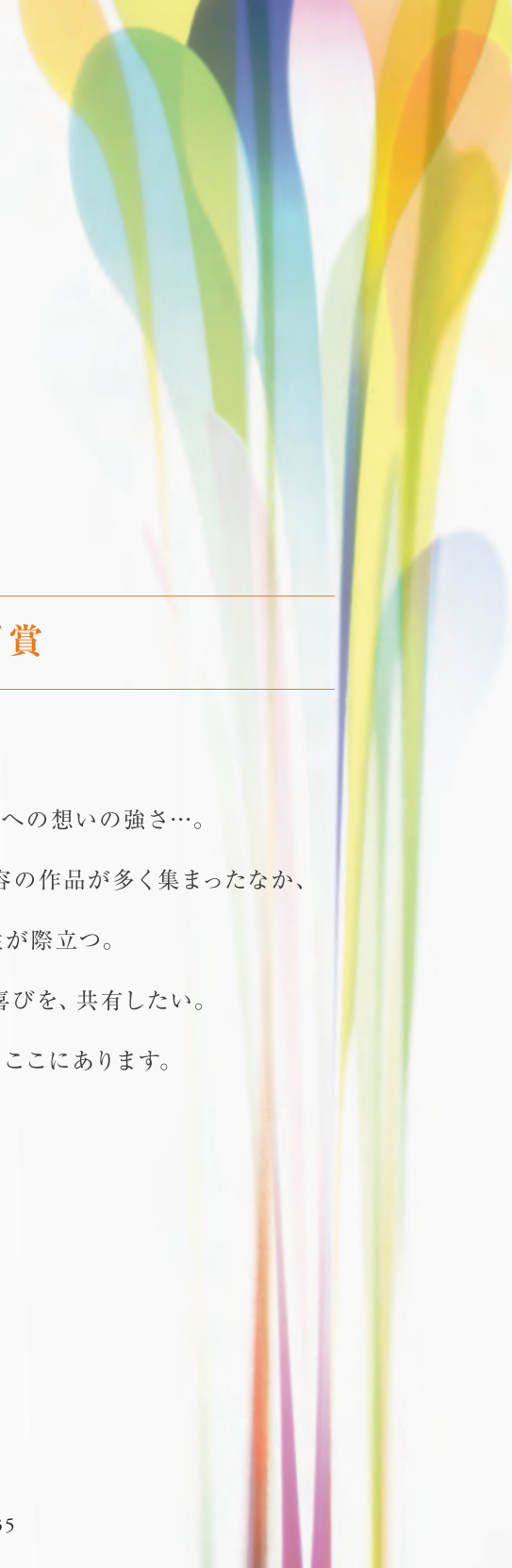
なんて率直で力強い線なんだろう。筆圧やガリガリとした音が聞こえてきそうな表現です。その勢いや構成が好きでした。なんとなくおだやかな描写が多かった作品の中で、この絵は圧倒的なパワーを放っていました。書かれていた文章もとってもチャームング!なんか元気をもらった。



フォト スケッチ

審査員賞 キッズ賞

その作者だけが持つ視線、
描き、写し取ろうとする対象への想いの強さ…。
例年にも増して充実した内容の作品が多く集まったなか、
なぜか目をひきつける、個性が際立つ。
そんな作品に出会うことの喜びを、共有したい。
そう思わせてくれる魅力が、ここに 있습니다。





審査員賞

冬の日差し 米倉 辰雄

王子五丁目（東京都）

冬の午後土曜日の広場には、子どもたちが遊ぶ姿が少なかった。
葉が落ちた木に、冬の日差しが当り長い影を伸びていた。

《審査員からのコメント 池邊 このみ》

どこの団地にも必ず一本はあるランドマークとなる大木。そのシルエットを、冬の日ざしが、長く大きく映し出した一瞬を捉えた団地ならではの一枚です。冬の夕方すでに子供達のいなくなった広場にたたずむ黒いシルエットは、団地の守り神のようでもあり、シュールな作品にもなっています。



審査員賞

掲示板にスイカ？ 肥後 富男

アーベインルネス足立（福岡県）

これは、本物のスイカです。団地の花壇の片隅に自生していたのを団地住民が、偶然見つけ住民共通の暮しのふれあいの場である、掲示板を通じ、お披露目したもので、その反響は、植物の生命力の強さ、スイカのしま模様の可愛いらしさに引きつけられた、等の話題から、住民同士の絆が生れた。

《審査員からのコメント 下田 昌克》 illustration 下田氏

団地にくらすって、こういうことだよなーと一番感じた写真でした。かっこよくない。でも何かたのしいくらしの出来事。なんでもないかんじの写真の撮り方もいいかんじ。





審査員賞

生まれ変わる 河原塚 正則

港南台かもめ（神奈川県）

8月の早朝散歩の際に真青な空の下、外装リニューアル中の建物が白く輝いて、お城のように美しくシャッターを切りました。
半年間の長い工期でしたが、さなぎの中で着々と蝶に生まれ変わる準備をしている様にも感じられました。

《審査員からのコメント 馬場 正尊》

最初は何が写っているのかわからなかった。仮囲いで包まれた建築は、そのフォルムが浮かび上がって美しいと思ったことがある。まさかこのコンテストで団地そのものでなく包まれた風景が見られるとは思わなかった。まるでクリストの作品のようなシュールで美しい一瞬。包まれることで日常の団地もちょっと違った存在として意識化される。それを捉えた作品だと思います。



審査員賞

商店街の夕暮 山室 嘉子

町田山崎（東京都）

団地から近くの家に移してもスーパーのある団地の商店街にはよく買物をします。昔ほど活気はありませんが、夏には夜店、冬にはクリスマスの飾り、正月飾りだの季節によってにぎやかになります。この日は冬の夕ぐれ。時を知らせるチャイムが鳴り、買い物客や子供達は帰宅を急ぎ1日がゆっくり過ぎていきます。

《審査員からのコメント ハービー・山口》

薄暮の商店街の空気感が見事に描かれています。昼間の光が残り、室内の人工光が灯り始めた時刻、二つの違った光の混り具合がとても美しいです。また静かに歩く人達の姿、たたずまいが、どこかなつかしく、見飽きない絵として仕上がっています。



審査員特別賞

ボクんちは、どこ？ 広沢 武

湖北台（千葉県）

空中からの湖北台団地全体の景観図です。

《審査員からのコメント 池邊 このみ》

「ボクんちは、どこ？」という標題で、美しい団地の配置図を描いた作品です。5年間のサミットでも初めて描かれたものです。団地の並木や公園、緑豊かな空間が美しく表現され、思わず住みたくなる。こんな配置図が、どこの団地にもあればいいのにと審査員全員が思いました。ぜひ、団地の配置図として永久保存してほしいです。



キッズ大賞

夜の団地も明るいよ 安間 伊吹

高陽（広島県）

夜になったら車が帰ってきて部屋に電気がつきます。横に描いたのはイルミネーションです。お月さまも笑っているよ。

《審査員からのコメント 下田 昌克》 illustration 下田氏

色をぬること、線を描くことを、まったくこわがっていないところがすごいかっこいい！！でも、まどの光の色がみんなちがっていることや車のライトの光の色の中にいろんな色があることもちゃーんと気がついている。えらい。山も雲も車も、みんな人格があるかんじ。僕も子供の頃、そんな感覚をもっていたことをこの絵を見て思い出しました。すごい。





キッズ賞

光る夜景を観ながら

姥貝 季輝

コンフォール仏向町（神奈川県）

弟が生まれて、少し淋しかった僕は、保育園から帰り、夜になると弟が先に眠った後、お父さんとお母さんと、ワイングラスにジュースをいれて、夜景を観ながらみんなで乾杯をしていました。僕が住んでいる団地は高台の上にあるので、ながめがいいです。保育園も見えます。この時間を「大人の時間」と呼んでいました。

《審査員からのコメント 馬場 正尊》

端正に定規を使って描かれた線と背景の淡い色とのバランスがとても美しい絵です。空間の奥行きを道や並ぶ住棟で表現しており、卓越した感受性を感じられます。10才でこんな風景の捉え方ができるなんてすごい！ぜひ建築家を志してみれば！？まだ早いか。この感受性を大切にしながら素直に絵を描いて行って欲しいです。



キッズ賞

楽しいくらし

安間 隼斗

高陽（広島県）

おばあちゃんのうちに行く時にいつも通るアパートがあります。洗濯物がたくさんほしてあるので、家族がすんでいるのかなあ。近くの空き地ではサッカーをしている人もいます。

《審査員からのコメント ハービー・山口》

7才の男の子が描いて下さいました。友達がいって、それぞれの階の部屋は明るく、外には花が咲いています。そして空には虹がかかっていて…。なんと明るく自分の毎日をそして家族を見つめているのでしょうか。明日はもっと良いことがある。そんなことを感じさせてくれる絵です。

キッズ賞

あかるくたのしいだんち

青木 斗那

屋島第一（香川県）

屋島の団地には、はじめて行きました。公園があって、みんな遊んでいました。上の方の窓から下でいる友達に話をしたりすっごく楽しそうでした。ぼくもここに住めたらいっぱい友達ができて毎日遊べて、楽しいだろうなあと思いました。

《審査員からのコメント 池邊 このみ》

団地を初めて訪れたお子さんが、公園があって、上の階の子供と、下の階の子供が楽しそうに会話をするのを見て、こんな団地に住めたら楽しいのと思う気持ちが、楽しそうな家族団らんの姿や、色とりどりの窓として描かれた素晴らしい作品です。団地の奥の森や山の線も描かれて、緑の多いこの団地の魅力をひきたてています。

フォト スケッチ 特別賞

ふれあい賞 団地景観賞
季節賞 メッセージ賞

描きたい、写したいという自分自身の想いに応え、
日々積み重ねられる人と人との交流を、
季節ごとに変わる表情を、
団地らしい魅力的な景観を、選び取っていく。
そんな試みから生まれた作品だからこそ
作品そのものに込められた想いに、
添えられたメッセージに、
私たちは、心ひかれるのではないのでしょうか。



ふれあい賞

雨上がり、水たまり 稗田 恵理子 コンフォール上野台（埼玉県）

雨が上がってよく晴れた日は、長靴を履いて水たまりを満喫に行きます。私も5歳と2歳の息子達も泥だらけになり、十分遊んだら家に帰ってお風呂と洗濯です。いつまで一緒に出来るかな…。



ふれあい賞

ダイコン レンジャー 林ヶ谷 友美 浜甲子園なぎさ街（兵庫県）

団地の一角にある、キッチンガーデンに参加して子供達も待ちに待った収穫の日、大根と白菜を収穫しました。それぞれ収穫した大根を持って並ぶ姿は、ゴレンジャーも顔負けの大根レンジャーの様でした。大根レンジャー達、次は何レンジャーに変身しようか？次はイチゴレンジャーかな？子供達と貴重な体験ができる時間です。



ふれあい賞

夏の風物詩 稗田 真人 コンフォール上野台（埼玉県）

自宅の前の公園では、夏の間小さい噴水と霧を楽しむことが出来ます。5才と3才の息子達はさっさと海パンに着替えて玄関で出発を待っています。いつもこうだといいのに…。



ふれあい賞

すべり台デビュー 山本 奈緒子 多摩平の森（東京都）

初めてのすべり台は、じいじとばあばの暮らす多摩平の森でした。私が生まれ育った多摩平団地は建て替えにより無くなってしまったけれど、でも確実に残っている故郷の空気の中に息子がいること。幸せです。



ふれあい賞

兄妹 丹羽 賢一 仙台鶴ヶ谷（宮城県）

よく遊びに行く団地の公園にて。遊具に登れない妹を励ますお兄ちゃん。妹ガンバレ！



ふれあい賞

ぽかぽか日和 武藤 洋子 アルビス鶴瀬（埼玉県）

OL時代に忙しく働いていた頃、ぽかぽか日和に団地で布団を干している風景を目にする度に、ほっとする様なあたたかな気持ちを感じて癒されていました。日なたぽっこをしながら、お隣りさんや、ご近所さんと会話を…私の理想のひとコマです。



ふれあい賞

団地の夏祭り 真次 弘 多摩ニュータウン長池公園せせらぎ通り北（東京都）

多摩ニュータウン長池公園では毎年、夏祭りが催されます。沢山の店が出て子供達も楽しそうに広場を走り回ります。



ふれあい賞

小さな公園 榎 知子 新金岡第一（大阪府）

建物に囲まれたところに小さな公園があります。そこに立つと、やさしく包み込まれているような気持ちになります。子供たちが遊んでいると、建物も公園もとてもうれしそうです。今まで、多くさんの子供たちを見守ってきてくれたのだなぁと感じました。



団地景観賞

UR アイランド 高橋 一吉

芦屋浜（兵庫県）

海に近いUR芦屋浜は釣り・ボート・ウェイクボード・カヌー等のマリンスポーツが盛んな環境に恵まれた楽しい団地です。



団地景観賞

自然の中の高座台 加藤 謹一

高座台（愛知県）

晩秋の頃になってやっと色づいた公園。午後の静かな池に高座台の住宅が映ります。



団地景観賞

希望の風景 真田 俊弘

奈良北（神奈川県）

高齢者が多く住む当団地。遠方まで花見になかなか出掛られない。団地内で夜桜祭りなど出来たら…。楽しめるし、コミュニケーションの少ない団地では、このようなコミュニケーションが出来る場所をふやしてほしい…と希望の風景。又若者達もこのような団地に住みたいと思うのではと思う。



団地景観賞

窓あかり 東海林 直

仙台宮城野（宮城県）

夕暮れ時、買い物から帰る人、学校から帰る子供達などざわざわとする時間帯があります。一日を終え、だんらんを始めるひとつひとつの家庭、部屋の窓あかりが付く頃。一番幸せを感じるひとときです。



団地景観賞

ゴールド色のUR 岩塚 好次

シティコート世田谷給田（東京都）

いつも、帰ってきた時この灯りを見ると心がなごみます。



団地景観賞

まるで水上都市 多和 裕二

豊島五丁目（東京都）

当団地は流れが穏やかな隅田川に囲まれ、水面に映える住棟群はまるで水上都市を思わせます。また当団地と隣接して隅田川テラスも整備され住民の憩いの散歩コースにもなっています。管理が開始されて40周年を迎え、これからも恵まれた環境のもと、多くの住民が水とのふれあい等を楽しみながら生活される事と思います。



団地景観賞

リバーシティ21 イーストタワーズ 森住 雄一

リバーシティ21イーストタワーズ・イーストタワーズⅡ（東京都）

日頃自然を相手に撮影している私にとって、都市の夜景撮影は初めての経験でした。隅田川の築地から上流に3kmさかのぼるのに3時間もかかってしまいました。撮影スポットが多々あるからですが、同時に東京の夜景の美しさに足がとられてしまったようです。リバーシティは、いろいろな撮り方があるようですが、永代橋がベスト。



団地景観賞

陽の光溢れる街 新庄 すが江

洋光台中央（神奈川県）

駅横という好立地に加えて、1階には個性豊かな商店が並ぶ、洋光台中央団地。その中央広場では、磯子の海風（洋）と輝く太陽の下（光）、フリーマーケットやフラダンス、そして時にはプロレスやコンサート等、多彩な催しが行われ、団地に住む人達だけでなく、町中の人々の集う、憩いの場になっている。正に、光溢れる街だ！



季節賞

お花見準備 安西 久幸

コンフォール上倉田（神奈川県）

この年何時もより天候がよく暖かく春が来たという陽気であった。桜は満開前で一番美しい時期であったのでシャッターを押しました。



季節賞

はなの日 本地 美香

白鳥パークハイツ大宝（愛知県）

春のワクワクする気持ちを描きました。住宅を見上げた時の印象を大切にしました。



季節賞

散歩道 襖田 雅和

ひばりが丘パークヒルズ（東京都）

少しばかり前のひばりヶ丘団地です。奥の建物は取り壊されてしまい、桜並木もかわりつつありますが、明るく、新しく変わっていくひばりヶ丘団地でも、こうして散歩を楽しめる街に生まれ変わることを期待しています。



季節賞

太陽に向かって 青木 行平

金沢シーサイドタウン並木一丁目第二（神奈川県）

東日本大震災の後、ネットで見つけ引越して来た並木団地。かつて大津波から人々を守った歴史のある富岡八幡の神前に創られた町は、子供達の笑顔と遊び場がいっぱいで、空は広く明るい。団地内では走者も少なく子育てするにはとても良い環境。子供達みんないっぱい遊んで太陽に向かってすくすく育ってね！



季節賞

多彩な変化 宮迫 裕介

ルミナス箕面の森五番街（大阪府）

この時期の箕面の森は赤・黄・緑と色とりどりの紅葉に囲まれます。そのうえ太陽の陽ざしがあたると益々鮮やかさが際立ちます。



季節賞

落ち葉の音 小池 さとみ

立川一番町東（東京都）

「この音大好き」「ママも…」落ち葉を踏み枯葉の音を楽しみながら散歩した秋。縄跳びがマイブームの娘と共に、移りゆく季節を満喫できるふれあい広場で。



季節賞

レッドカーペット ～僕の歩く道～ 野澤 純子

高島平（東京都）

早朝のジョギング、散歩の帰り道。まるでレッドカーペットのように彩られた道。そこはまだ誰も足を踏み入れていない、自分だけの道。今、歩きだそうよ。



季節賞

雪の日の夜 近 昇

八王子パークヒル宇津木台（東京都）

夕方から降り続けていた雪が、夜になると一面の雪景色。街灯の灯りが雪に反射してオレンジ色の光りを輝かせていた。当団地に越して来て初めての冬。こんなきれいな雪景色が見られて大変幸せに思った。

親子で花火見物

8月11日は八千代の花火大会。
東京に住む三男も帰って来ました。
混み合う場所は嫌だな、と気が重かったのですが、
そこで、ふと思いついたのが、
自分の住む棟の最上階。
誰もいない階段で、親子で花火見物を
楽しむことが出来ました。
もっと早く気が付くべきでした。



メッセージ賞

野澤 義明 村上（千葉県）

家族の記憶

幼ない頃、常盤平団地に住んでいた
と言う彼女と、団地を歩いて回りました。
「この階段をかけ降りて遊んだんだよ！」
と話す彼女。
階段室からの風景も、小さい頃の思い出と
一体となってよく憶えているそうです。
この場所には今でも温かい家庭が
いくつもあるのだろうと感じました。

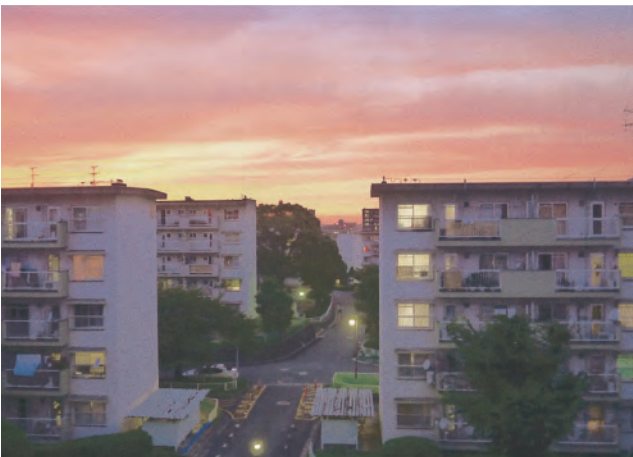


メッセージ賞

瀧田 暁月 常盤平（千葉県）

住人十色 ～こころが安らぐ団地の生活景～

結婚と同時に団地に越してきてから10年、
毎日見てきた景色。
同じ窓から、住む人によって異なる「色」が
写し出された写真。
日々変わる『生活景』が団地の風景をつくっており、
この風景に安心感を得ていたことに気づきました。
この度、道路事業で立ち退きになり、
引っ越ししなければならないので、記念の1枚です。



メッセージ賞

田浦 加奈子 萩原（福岡県）

復興を願って

東日本大震災の「心の復興」を願って
灯籠流しが行なわれました。
犠牲者を哀悼し被災者の皆様に
思いを寄せながら撮影しました。
寒さにもかかわらず
近所の住民も大勢参加され、
おごそかに行なわれました。



メッセージ賞

能登 正俊 シーリアお台場一番街（東京都）

8号棟の向こうの空に2つの虹が出たよ

夕立ちの後、見たこともない
大きな2つの虹が出ました。
うれしくて傘を振り回しているところを
切り絵にしました。
2つの虹は順番が逆になっていることを
発見しました。
今度夕立ちがきたらお友だちに
この場所を教えてあげたいです。

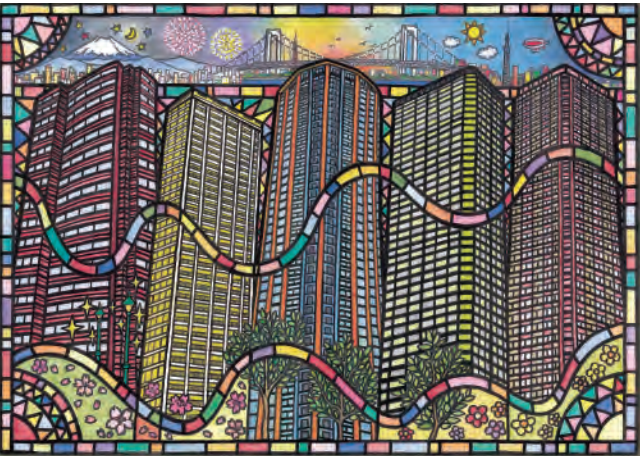


メッセージ賞

井上 沙紀 郡山駅前（奈良県）

UR 摩天楼

都心に住む魅力は色々あると思いますが、
中でも高層階から見る景色は、
まさに大都会を満喫できる
すばらしいものです。
毎日見ても飽きることはありません。
『東京ってやっぱりいいなあ。』
そんな楽しさをステンドグラスのような
イメージでイラストにしました。



メッセージ賞

末岡 美奈子 河田町コンフォガーデン
天王洲ビュータワー
中目黒アトラスタワー
ベイシティ晴海スカイリンクタワー
リバーシティ 21 イースト Towers（東京都）

そろそろ帰ろっか

冬の夕暮れは早く、あっという間に
時間は過ぎてしまいました。
家につく頃にはママの手料理が
できていることだと思います。



メッセージ賞

福山 森 洛西境谷東（京都府）

帰る場所

生まれて初めて、ここを訪れた娘。
それでも「ただいま!」と言うと、
「おかえり」と、
あたたかく迎え入れてくれた。
団地内の公園でも、
初対面の子が一緒になって遊んでくれた。
ここは、いつでも帰って来られる、
そんなあたたかい場所。



メッセージ賞

氏家 久美子 小平（東京都）



団地の姿とそこに住まう人の営み、周辺環境との調和がつくりだす景観を描き、写しとった作品を、テクニックや表現手法にとらわれず、独自の視点から評価する。そんな他にはない取り組みとして、今回、5回目を迎えた「団地景観フォト&スケッチコンテスト」。

審査員プロフィール



■ ハービー・山口氏 / 写真家

1950年東京都出身。大阪芸術大学客員教授。東京経済大学卒業後渡英し10年を過ごす。ロンドンでは役者として舞台を踏む一方、アーティストから市井の人々を捉えた写真が高く評価された。帰国後もヨーロッパと日本を往復し広く人々にカメラを向けている。
テーマは一貫して「希望」。その清楚な作風を好むファンは多く、写真の他、エッセイ執筆、ラジオのパーソナリティー、さらには布袋寅泰のアルバムには作詞家として参加している。日本写真協会賞作家賞受賞。
最新刊に「HOPE311 陽、また昇る」講談社。



■ 下田 昌克氏 / 絵描き

1967年兵庫県生まれ。94年から2年間、中国、チベット、ネパール、インドそしてヨーロッパを旅行。その旅行中に会った人たちのポートレイトを描き続け、それを日本に持ち帰り週刊誌での連載を開始。著書に2年間の旅行の絵と日記をまとめた「PRIVATE WORLD」（山と溪谷社）、絵本「そのいろみずいろ」（小峰書店）、バリ島でのスケッチブックで作った「バナナの蜜」（講談社）。ネパールでの絵と日記をまとめた「ヒマラヤの下インドの上」（河出書房新社）など。



■ 馬場 正尊氏 / Open A代表／東北芸術工科大学准教授／建築家

1968年佐賀県生まれ。1994年早稲田大学大学院建築学科修了。博報堂、早稲田大学博士課程、雑誌「A」編集長を経て、2002年Open Aを設立。都市の空地を発見するサイト「東京R不動産」を運営。東京のイーストサイド、日本橋や神田の空きビルを時限的にギャラリーにするイベント、CET（Central East Tokyo）のディレクターなども務め、建築設計を基軸にしながら、メディアや不動産などを横断しながら活動している。



■ 池邊 このみ氏 / ランドスケーププランナー

1957年東京都新宿区生まれ。千葉大学大学院教授（学術博士）専門は、環境造園デザイン学。千葉大学大学院博士課程修了、住信基礎研究所、ニッセイ基礎研究所等を経て、現職。2007年より3か年、UR都市機構の都市デザインチームリーダーを兼務。学術会議連携会員、国土交通省社会資本整備審議会委員、文化庁名勝部門審議委員、国土交通省景観賞審査委員、歴史的風致維持向上推進調査評価委員の他、各地で景観審議委員を務める。

● フォト大賞 「水鏡」



ハービー・山口 建築物を写した作品ですが、別の角度から見たとしたら、おそらく平凡な作品になってしまったのではないのでしょうか。このアングル、この時間を選び、シンボリックで美しい建物のポートレートとして撮った。写真的センスに優れた作品だと思います。シンプルに上下対象の構成にすることで、建物が浮き立ち、よけいなものが画面に入っていない。非常に完成度が高い作品です。撮



影ポジションと時刻を選ぶことで、一つの建物がここまでフォトジェニックになることを思い知らされました。

馬場 正尊 作者はこの場所のことを知っていて、気になっていて、いつも見ていたのではないかなと思わせてくれる作品です。その風景のなかから、ものすごく美しく見える瞬間を捉えている。これはたった1枚の作品ですけど、違う時間、違う天気、違う空の色、違う撮影者の気分、そんなたくさんの蓄積の中から一瞬を捉えたことで、作品に奥行きを感じさせてくれる。表現として強い作品だと思います。

ハービー・山口 おっしゃるように、雨の日も、晴れの日も、冬も、夏も、いつも見ているなかで、水面に建物が映るこの時刻が一番フォトジェニックな瞬間だと判断した。その見極めがいいですね。晴天の日撮ったとしても、ここまでのドラマはできない。建物を光の塊に抽象化した夜景撮影の手法もすばらしいです。

下田 昌克 建物そのものと水に映った影という上下の形だけではなくて、左右もシンメトリーに近い構



図。いろいろ連想できる形ですね。

池邊 このみ 白黒写真ではないけれども、白黒写真のように抽象化されていて、写真としても美しいと思います。

ハービー・山口 人物に例えるなら、自分の奥さんなり彼女なりが、この角度がいいんだよという自慢の角度で写したポートレートだと思います。そんなアングルを発見できるのは、写真家としてもすごくうれしいことではないでしょうか。

馬場 正尊 審査の途中で話題になったのですが、この作品のほかにも、20代の人たちが、団地を美しいオブジェとして捉えている作品が何点もありました。若い世代ほど、団地を美しさの対象として捉えていることが興味深かったですね。団地が原風景の世代は、感情を込めて団地を見てしまうけれど、若い世代は客観的に見て、住棟が並んでいる印象に美学を感じるのだなと実感できました。



ハービー・山口 世代によって、ノスタルジーで見る人もいれば、造形美として見る人もいます。この作者のように、20代の人には造形的な美しさを見るのかもしれませんが。

● スケッチ大賞

「カーテン」



ハービー・山口 薄暮のなか、窓に電気がついている。少しポップな感じの色のカーテンがそれぞれの家庭の営みを想像させてくれる作品です。手前の人物の後ろ姿が、せつない印象ですよね。パステルのようなシンプルな色使いで、さわやかさも。カーテンを透けた光が美しいです。

下田 昌克 しかも、作者が何を見てきれいだと思ったか、ストレートに描かれています。



池邊 このみ 過去のコンテストでも、洗濯物や布団が干してある様子を描いたものはあったのですが、この作品

のようにカーテンを描いたものは初めてだと思います。カーテンが透けて見えるなかに、それぞれの家庭の個性が表現されていますよね。

ハービー・山口 洗濯物や布団だと、リアルではあっても、生活感が出すぎますよね。カーテンにしたことで、その生活感が美しさに変わっている。何気ない生活の中に美を求める、作者のロマンだと思います。手前に人物を入れているのも心憎い構成です。

馬場 正尊 帰り道の雰囲気ですね。

ハービー・山口 家に帰っていく、光の中に帰っていく。ストーリーがありますね。

池邊 このみ それがこの作者のうまさですね。自転車の車輪を描いていないところも上手だと

思います。

ハービー・山口 登場人物の配置と構図の切り方がいいんですよ。

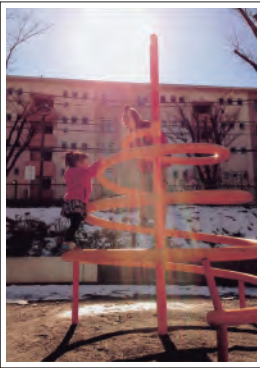
馬場 正尊 確かに、画面手前の登場人物がいなかったら、見る人は感情移入ができない。温かな光の中に帰ってくような気持ちで、団地を見られませんか…。

ハービー・山口 後ろ姿で、この人のセリフや気持ちまで想像できる。上手な人物設定だと思います。

馬場 正尊 きょうは、ちょっとつらいことがあったけど、家族のいる家に帰ろうって、ほっとする感じがですね。

● フォト最優秀賞

「ゆっくり、ゆっくり」



ハービー・山口 まだ雪が残っているなか、光には、春の兆し、命の息吹のような力強さを感じられる。逆光のなかに美しい形を写しとっています。オレンジ色の遊具がくるくると回る。動きがある情景のなかで子どもが元気に遊んでいる姿を描く。団地での日常をきちんと捉えた作品ですね。

池邊 このみ 「ゆっくり、ゆっくり」というタイトルのように、子どもの成長がゆっくりということ、ゆっくり遊具に登っていくようす、それをお母さんが見守っている団地のよさが感じられる作品だと思います。光のシャワーのような情景も、すご

くいいですね。

ハービー・山口 人への眼差しが感じられる作品です。ただ、人が主役であっても、団地独特の空気感も出ていますよね。遊具がある空間が身近にある。そんな生活環境もよく捉えられています。

馬場 正尊 時代とともに、集合住宅の建物と建物の間隔は狭くなり、建物自体が大きくなってきている。そんななかで、建物と建物の間にゆとりがある団地ならではの空間に、光が射して影ができる。コントラストがしっかり表現されていますね。光が射している部分と影になっている部分が共存していて、そのすき間のような空間で、気ままに思い思いのことをしている。そういう空気感が出ています。独特の眼差しが温かいなと思います。

● スケッチ最優秀賞

「宇宙公園はぼくらの楽園」



下田 昌克 作者の方は84歳の方なのですが、ご高齢なのに宇宙公園のロケットのような遊具を画面の中央に描く潔さが、すごく格好いいと思います。周辺の景色の描き方や色使いから、ものすごく一生懸命に描いていることが伝わってくる。慣れ過ぎていては描けない強さですし、かわいらしい、若々しい絵だと思います。自分もこういう絵を描けるようになりたいと思わせてくれる作品ですね。

ハービー・山口 84歳になっても若々しい作品が描けるような日常生活というのは、ある意味すごいですね。写真であれ、絵であれ、歌であれ、詩を書くことであれ、表現者であり続けることは

すばらしい。

下田 昌克 僕だったら、ロケットを真ん中には描けないかもしれません。どちらかに寄せた方が構図的に優れていると思ってしまう。

ハービー・山口 私もしどろかに寄せてしまうと思います。こんなふうメインの対象を真ん中に置く構図は「日の丸構図」といって、平凡でつまらないといわれていますが、この作品は真ん中に置いて強調していることが、格好よさやインパクトにつながっている気がします。

池邊 このみ しかもこの作者は、子どもの動きをよく見えていますよね。画面左の子どもの手を上げているポーズにも、観察眼の鋭さを感じられます。子どもの自然な姿を微笑ましく思いながら見ているという印象です。

下田 昌克 色や動きも描き分けている。木の質感なども、きちんと描けています。

馬場正尊 細かいものを丁寧に見て、それを写し取ろうとしているからでしょうね。

● フォト優秀賞

「そろそろ帰っておいで」



ハービー・山口 私が仕事で撮影するとしたら、真横で撮ったり、楽しそうな表情を狙ってしまいそうですが、この作品は、後ろの建物に最後の夕日がかすめて、お母さんがごはんだよと呼んでいる時間帯の、あと一回だけブランコをこぎたい、名残惜しいという気持ちを後ろ姿のシルエットで表現している。ブランコのフレームの線などの難しい部分もうまく処理されていると思います。

池邊 このみ 建物の上の空間までブランコが上がっていて、住棟に重なっていない。そんな構図もよく考えられていますね。

ハービー・山口 そう。建物に重なると、構成としてもつらいですね。宙に浮いたところを撮影している点もいいところです。

池邊 このみ あと少しの時間しか遊べないからこそ、一杯漕いでいる。そんな勢いも感じられます。ブランコが一番高い位置にある一瞬を撮っている、緻密に計算されているのかもしれない。また、何か切なさや哀愁が感じられます。

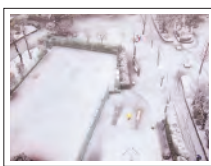
ハービー・山口 その切なさは、時間的なことと、シルエットにしたことで感じられるのだと思います。

池邊 このみ しかも、季節は冬ですね。木に葉がないので。冬の少し寒い夕暮れ時…。

ハービー・山口 少しさびしげな雰囲気がいいですね。

● フォト優秀賞

「冬のアシアト」



ハービー・山口 ほとんど白黒の雪景色のなかに、点景として傘の色がある。カラー写真だけど白黒に近い表現

が魅力の作品ですね。雑多なものが見えない、きれいな光景に人の気配を入れることで、写真に命が備わった。春、夏、秋、冬と、自宅の窓から見える風景のなかで、雪だ、人が来る、美しいと、フォトジェニックなものを判別する力がある作者だと思います。人物をさりげなく画面の右に置いた配置もいいですね。

下田 昌克 丁寧なエッチングのような、お話の1ページのような…。人が歩いた足跡が、いろいろなことを連想させる配置になっていて、きれいですね。

池邊 このみ メッセージは、「アシアト」、「コドモたち」など、片仮名で書かれていますが、それもこの作者の切り取り方に近い感覚なのかもしれませんね。

ハービー・山口 点景の人物が有効ですね。人物には、つつい近づきたくるものですが、この作

品は全体の風景に人物を上手に取り込んでいます。

池邊 このみ 住棟は写っていないけれども、非常に団地らしい。囲まれた空間の外に住棟があることが感じられる気がします。

● フォト優秀賞

「照らされる日」



下田 昌克 絵画的な写真ですよ。 **池邊 このみ** 団地らしい、直角ではない微妙な角度に配置された

住棟に光が当たっていて、空が印象派の作品のような色合いに見える。広く空を入れた構図、団地の角度も本当に美しいと思いました。画面の下に緑の絨毯の部分が入っているのも、団地の空間らしくていいですよ。

ハービー・山口 フィルムカメラの時代では技術的にいうと、空をこの作品のように撮ろうとすると、建物がもう少し暗く写ってしまう。建物と空、どちらかに露出を合わせるとどちらかが犠牲になる場合が多いのですが、空の表情も、建物も、ほどよく写っています。

建物の撮影だと、どうしても広角レンズを使っても全体を画面に入れたくないと思いがちなのですが、作者は、広角レンズを使わずに風景の一部分を切り取って、全体が持つ雰囲気を表しています。しかも、夕暮れに差ししかかったときの、日中の光が名残惜しい気持ちが画面の色に出ている。まさに印象派の絵画に共通するような、ものを見つめる優しさがあるのではないかと思います。

馬場 正尊 何気ない普通の風景なのですが、落ち着いて見直してみると、僕らが好きな団地の美しさはこういうところにあるのだと再認識させられます。作者には、そういう何気ない風景を捉える才能がありますね。

● スケッチ優秀賞

「文化祭」



下田 昌克 この作品は、じっくり見ると、一つひとつに見出しをつけてみたいほど画面の中でいろいろなことが

起こっています。良いことも、悪いことも起こっている世界で、登場人物の表情を見、何をやっているかを見ていくことで、おもしろさがわかるような作品ですね。

馬場 正尊 一つひとつのモチーフに、人と人とのコミュニケーションが描かれているんですね。登場人物のセリフがリアルに想像できる。

下田 昌克 そう。それも、良いことだけでなく、良いことも悪いことも、人の世界の森羅万象が詰め込まれているような気がする。

池邊 このみ 団地が社会の縮図として描かれている印象です。作者は70歳の方ですが、迫力があ

りますよね。
ハービー・山口 老若男女が集う団地の広場という風景を通して、人のさまざまな営みを描き込

んだところが面白い。
馬場 正尊 実際、団地だけでなく、共同生活って面倒くさくて複雑なものじゃないですか。それを隠そうとせずにそのまま描き出したという点も、評価できると思います。

● スケッチ優秀賞

「夕方の一時」



ハービー・山口 一日の終わりの夕焼けのなか、まだ遊んでいていんだよというように若者が通りかかり、女の子が談笑し、子どもたちがおしゃべりをしてい

る。住民の平和な姿に心が安らぐ作品です。

馬場 正尊 独特の色と質感、たたずまいといえますか、そんな雰囲気になじみかみにされた印象です。どこかで見たことがあるような懐かしさもありますよね。

ハービー・山口 緑の森の表現もいいですね。夕暮れの光があたっているところが、きちんと表現されています。ポストカードにできそうな作品ですね。



池邊 このみ 緑の中にどしりと落ち着いて建つ団地の風格といいですか、そんなものが表現されていて、いい団地だなという感じも伝わってくる。

ハービー・山口 年月を経て、風景に溶け込んだところがいいんですよ。例えば外壁がガラスでピカピカ光っていたとしたら、ここまでの風情は出ない。使い込んだ温かさがありますよね。人々が思うままに平和な暮らしを営んでいる空間。住棟に囲まれた団地ならではのイメージが伝わってきます。

池邊 このみ 見守り感ですね。

● スケッチ優秀賞

「夜の団地」



ハービー・山口 30歳の方の作品です。紫の空を描いた筆の運びが印象的なのですが…。

池邊 このみ すごいタッチですね。

下田 昌克 線で画面を埋めていくような手法で描かれていますし、選んだ色も黒や青ではなく紫、紫の夜空が格好いと思わせてくれる作品です。星と月の balan



スもいいですね。

馬場 正尊 確かに格好いいですよ。ガリッとラフに描いた質感もいい。Tシャツの柄にしたいと思いました。

ハービー・山口 そんな世界観のなかで、住棟に書かれた数字が現実引き戻す効果を発揮している。作品に添えられているメッセージも、インパクトのある文章です。作者の純粋さが感じられますね。

下田 昌克 何か一生懸命な感じがする。でも、きちんと大人っぽいし、格好いい。そんな作品ですね。

● 審査員賞

「冬の日差し」



池邊 このみ URの団地には必ずランドマークになる大木がありますが、それをシルエットで撮影した作品です。敷地が砂だから、こういう映り方をしているのだと思いま

すが、そこを学校や遊び場帰りの子どもたちが歩いている。まさに団地ならではの風景ではないでしょうか。低い冬の日差しで大きく伸びた影が住棟まで届いている光景を、少し引いたアングルで撮影しているのも目を引きました。

ハービー・山口 環境に関心をお持ちの池邊さんならではのセレクトですね。

池邊 このみ 緑を直接的に写している作品では

ないのに、緑を感じさせるのもいいと思います。

ハービー・山口 良い視点ですよ。単刀直入で、いい構図だと思います。

● 審査員賞

「掲示板にスイカ？」



下田 昌克 フォトジェニックではないのですが、団地の生活ってこうだねと思わせてくれる。他人と一つの建

物に住む面白さ、団地ならではの距離感を象徴的に写した作品だと思います。僕も子どものころ団地に住んでいて、こういう団地の生活というか、距離感がすごく苦手だったのですが、大人になると、こんなに楽しかったのだなと思える。ある意味、わかりやすい写真でした。

ハービー・山口 団地のコミュニケーションツールである掲示板で、花壇に実ったスイカを紹介している。都会のマンションにはない住民の感情でしょう。こうした住民



同士のさりげないコミュニケーションがうらやましいですね。

● 審査員賞

「生まれ変わる」



馬場 正尊 仮囲いされた状態の建物のことは前から気になっていて、実は美しいものなのではないかと思っていましたが、コンテストに応募があったことに驚きま

した。見方によっては、巨大な建物を梱包するアートで知られるクリストの作品のようで、フォルムと

しての団地の美しさ、面白さのようなものが端的に出ていると思います。

池邊 このみ 去年、団地再生の現場に携わったのですが、仮囲いをされているのが不快だという気持ちの一方で、それが外された瞬間に美しい空間に生まれ変わるという期待もある。それが、作者の美しく撮ろうという気持ちに出ていると思います。
ハービー・山口 十数年に1回のシャッターチャンスですね。



● 審査員賞

「商店街の夕暮」



ハービー・山口 夕暮れの団地を描いたスケッチです。昼間の光と電球の人工光が微妙に混じり合っ

てほしいという寂しさと、夜が来るというときめき感が感じられる作品です。写真では、これだけ決まった位置に人を配置して撮るのは難しいのですが、絵だからこそ完璧な人物配置ですね。

池邊 このみ 団地のセンター街区は、少しさびれているところも多いのですが、作品が描かれた団地は活気があって、さびしい夕暮れ時だけれど、商店街にとってはお客さんが来る時間帯。決



して活気があるわけではないけど、アットホームな、おだやかなにぎわいを感じさせてくれる作品だと思います。

下田 昌克 人が、みんな少し猫背なのもいい雰囲気ですね。

● 審査員特別賞

「ボクんちは、どこ？」



馬場 正尊 この作品は、団地の案内板に対して新しいヒントを与えているのではないかと思います。一般的に

はドライに住棟配置を並べてあるものが多いのですが、必ずしもそうする必要はない。案内板自体にいろいろと楽しい情報が盛り込まれていてもいいのだと、気づかせてくれる作品ですね。

ハービー・山口 案内板って、情報を与えるのが主な目的ですよ。それをこうして作品にするというのは、ものすごい発想です。新しい物の見方だと思います。

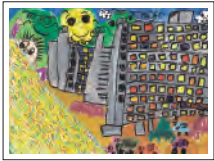
池邊 このみ これを見ると、この団地にはすごく太い並木があるとか、緑の空間がたくさんあるとか、子どもが遊べる公園があるとか、そういうことが伝わってきます。住棟配置以外にも、そんな情報が必要なのだと気づかせてもらいました。

ハービー・山口 人は普通、自分の身長の高さでものを見ているんですが、この作品は、俯瞰という、鳥の目で見せてくれる。蟻の目で見ないで、鳥の目でみなさい。小さなことで悩む必要はないよと教えてくれる。そんな爽快感がありますよね。



●キッズ大賞

「夜の団地も明るいよ」



下田 昌克 全部違う色で夜の窓を描いていますし、夜になっても明るいということに気づいて絵にしたのでしょ

う。車や山、月、雲といったモチーフの全部に顔がついていて、イルミネーションからも「なんだろう」と思わせるような顔が見えている。
馬場 正尊 夜、車が駐車場に入ってきたときに、ふっと明るくなりますね。お父さんが帰ってきて、窓からの景色がヘッドライトに照らされて、「あ、帰ってきた」と気づく。そんな時間を描いた感じもします。下田さんが顔のことを指摘されていますが、この作者は、日常の小さなもの、いろいろなものに生命があると感じている。すばらしい感性だと思います。

下田 昌克 子どものころって、無機質なもののや、人工的なものにも、感情があると思えたということをおい出します。大人になって忘れてしまったことにハッとさせられますよね。

ハービー・山口 大人の私たちの方が、こういう見方があることを教えられますよね。

下田 昌克 そうですね。もともと予定になかったキッズ大賞を新たに設けたのですが、それにふさわしい。いい作品だと思います。

●キッズ賞

「光る夜景を観ながら」



下田 昌克 これは、大人っぽい作品ですね。省略の仕方も上手だと思います。

ハービー・山口 定規を使って描いているところが、ほかのキッズ賞作

品とは違いますよね。バックの処理や筆使いも巧みです。建物は定規を使って几帳面に描いているけれど、背景など、状況によっては定規を使わずに、ふわっとした線で表現している。

池邊 このみ 広場の車や、奥の建物の一つひとつにライトが当たっている様子まできちんと描けていますし、緑地と市街地が帯のように重なって見えるといった団地が建つ地形の特徴も捉えられている。子どもながらに、団地からの夜景のよさが、わかっているのだと思います。

下田 昌克 湾曲した道を描いたことで、見る人には、きちんと何かが伝わってくる。人に伝えるということが、感覚的にわかっている感じがします。

●キッズ賞

「楽しい暮らし」



ハービー・山口 これも生命感溢れる色使いの作品ですね。

下田 昌克 家の中を、黄色い色調でカラフル

に描いています。この子は楽しい家庭に暮らしているのだなということが、想像できますよね。

ハービー・山口 空には虹も出ていて、楽しい気持ち表れていますよね。

池邊 このみ 団地の生活は楽しいよという子どもの気持ち、孤独ではないという想いが感じられて…。幸せな気持ちが溢れています。

下田 昌克 キッズ大賞の作品もそうですが、色を使うことを恐れていない感じがしますね。バランスを考える前に、強い色でどんどん描いていく。

ハービー・山口 非常にポジティブな心を持っているのではないのでしょうか。力強いですね。

下田 昌克 なぜ、自分はこんなふうに描けなくなったのだらうと思えて、ショックですね。大人になると思ったままに描けなくなってしまふ。なぜな

のだらうと…。

ハービー・山口 子どもの無邪気さが感じられる、まるでピカソのような作品です。

●キッズ賞

「あかるくたのしいだんち」



ハービー・山口 団地を、屋上や窓に国旗が広がっているような情景として見ている。楽しい作品です。

池邊 このみ 家のなかの様子が大きく描いてあって…。いろいろな色で、いろいろな形で表現されている。確かに、楽しさが感じられますよね。

ハービー・山口 この団地には、近所付き合いがあるんだと思うのです。そうでないと、カーテンを開めた絵を描いてしまふ。例えば、あそこの部屋の友だちが勉強している姿が家から見える。楽しうだな、テレビもついているねといった感じで、知っている人たちを温かく見ているという印象ですよね。

池邊 このみ メッセージには、上の階の窓から下の階の友だちと話をしている様子が楽しうだったとありますから、作者は団地には住んでいない。けれどもうらやましく見ているということかもしれません。

ハービー・山口 そういうコミュニティもいいなと思っているのですね。それを、作品でしっかり表現している。

下田 昌克 線が自由でいいですね。

馬場 正尊 立体的に生活している感じが出ていますね。住棟が向かい

あわせに建っていて、平面ではなくて、上下や斜めの関係性があることがわかっているから描ける作品だと思います。



■ 審査を終えて

ハービー・山口 今回の受賞作品を見ていると、団地に住んでいることの楽しさ、うれしさなどがよくあらわれていて、見ていて元気をもらったような気がします。特に、子どもたちがとてもポジティブな絵を描いている。生活基盤である住環境が、そこに住む人にポジティブな時間や精神性を与えることはすばらしいことだと思います。これからの日本を背負う子どもたちが、伸び伸びと大人になっていくためには、こうした生活環境が重要な役割を果たすのだらうと思います。だから、この



作品たちを、もっといろいろな人に見てほしい。例えば、展覧会などの場があるといいですね。イベントで展示するなど、写真やスケッチをもっと身近に感じてもらう場がつかれたらいいと思います。ポストカードを製作してもいい。残しておきたい。感動的な作品がありましたから…。

馬場 正尊 作品を見ていて、団地の良さというのは、隙間というか余白があることだと、改めて思いました。皆さん団地をいろいろな角度から解釈して自由に描いていますし、いろいろな空間を、いろいろな使い方を楽しんでいる様子が写真からも分かる。ふだん見逃している風景の中に、



美しさや楽しさを発見している。団地のよさを再発見させてもらった感じがします。団地だと、どうしても管理という視点が必要になるのかもしれませんが、そこに住んでいる人たちは、作者の方たちのように、現状の空間や生活をポジティブに楽しく捉えて生きていこうと思っている人がほとんどなのではない

でしょうか。この作品群は、生活のヒントやアイデアの集積というか、宝の山のようなものです。アイデアブックとしても参考にしたいと思います。

下田 昌克 作品集として印刷物になると、応募した人はものすごくうれしいですね。展覧会というご意見もありましたが、もっといろいろな人の目に触れる機会があるといい。団地絵画展でツアーができたらいいいのかなと思います。私も高校まで団地で育っていて、今も両親は団地に住んでいます。高齢になってきているのですが、ご近所との距離の近さや、子どもとの距離の近さ、そういう団地ならではの距離感があることで、周囲の人たちに助けられている

部分が確かにあるように思います。審査を通じて、団地の、マンションとは違う人との距離感をうまく育てていければいいと感じさせられました。

池邊 このみ 私は、もともとコンテストの企画者として携わっていたのですが、団地に住む皆さんが胸を張って「私の団地はいいんだよ」と社会に自慢する場が欲しいと思ったのが、5年前にこのコンテストを始めたきっかけでした。ですから、

いわゆるフォトコンテストではなくて、団地への想いをメッセージとして添えて応募してもらい、メッセージも含めた作品として審査することにしたのですが、今回も、素敵メッセージに触れることができ、言葉でなく作品そのものにメッセージ性を感じられるような写真や絵が増えていると感じました。例えば、子どもや高齢者の方もポジティブな絵を描ける。そんな心の健康を、団地という場は育むことができる。一般の人に、団地の景観や、子どもたちが団地のことをこんなに明るく捉えていることを伝えられれば、URの団地が幸せな街をつくる基盤になることを社会に発信できると思います。5年間集めた作品を、貴重な財産として使っていただきたいですね。



全国団地景観サミット2012

UR賃貸住宅「団地景観フォト&スケッチコンテスト」の概要

[開催にあたって]

全国団地景観サミットにおける「団地景観フォト&スケッチコンテスト」は、UR賃貸住宅のある全国の団地について、団地に関心をお持ちの皆様にその魅力を表現していただき、それをより多くの方々にお伝えすることを目的として開催し、今回で5回目を迎えました。

2012年の全国団地景観サミットのテーマ「暮らしの舞台～団地の風景～」は、団地ならではのふれあい、コミュニティの素晴らしさを、団地や地域にお住まいの方々に作品を通じてお伝えいただきたいという思いから設定しました。

コンテスト応募作品は、全国に1700以上あるUR賃貸住宅を題材とした写真又はスケッチとし、皆様の団地景観に対する想いを、タイトルとメッセージで表現していただきました。

[審査結果]

合計で386名の皆様から、720作品のご応募をいただきました。
この中から、1次審査、有識者審査の厳正なる審査のうえ51点の入賞作品を選出いたしました。入賞作品の内訳は、大賞2点、最優秀賞2点、優秀賞6点、審査員賞5点、キッズ賞4点、ふれあい賞8点、団地景観賞8点、季節賞8点、メッセージ賞8点です。

審査評価においては、写真やスケッチのクオリティだけでなく、作品のタイトル及びメッセージについても評価対象とし、総合的に評価させていただきました。

[スケジュール]

- 平成24年 7月10日
全国団地景観サミット2012開催発表
- 平成24年 8月20日～2月20日
作品応募受付期間
- 平成25年 4月15日～4月26日
応募作品の審査を実施
- 平成25年 6月11日
審査結果発表

最後に、本コンテストの実施につきまして、ご協力いただいた皆様及び応募者の皆様に、深くお礼申し上げます。

<http://www.ur-net.go.jp/urbandesign/>

発行 独立行政法人都市再生機構 技術調査室 都市再生設計チーム
〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー9階

企画 独立行政法人都市再生機構 技術調査室 都市再生設計チーム 森田 正彦 林 新太郎 日尾 奈美子

製作 株式会社URリンケージ 都市・居住本部 企画設計部

2013年 7月発行